

研究主題	子どもの「やってみたい」があふれ 未来につながる幼児教育
研究の重点	幼児教育における今日的課題に応じた保育実践の充実 ～長時間保育における幼児期にふさわしい生活～
研究の視点	一人一人が1日を通して充実した園生活を送るために

～長時間保育における遊びの充実とは～

昨年度は、子どもたちの多様化する生活様式の中で「教育時間(9時～13時半)」以外の時間にも、子どもの思いや遊びが続いていくよう支えるためにはどのような援助や環境が必要かを考えてきました。その成果として、教育時間で積み重ねた経験が、保育時間や家庭での遊びにつながったり、じっくり遊びこむ経験が、自分で遊びを進めていく力につながったりすることが分かりました。

その成果をもとに今年度は「教育時間における様々な経験や遊びの充実が、教育時間外の遊びへの思いにつながるのではないか」という仮説を立て、「長時間保育における遊びの充実とはどういうことなのか」ということを事例をもとに考えていきたいと思います。

3歳児実践事例『キャンプごっこをしよう』

遊びの種が生まれる

- ・ごっこ遊びが好きな子どもたちが、アニアのシートを布団やテントに見立てて遊び、玩具ケースで場を区切っておうちごっこをしていました。
- ・家庭でのキャンプやバーベキューの経験から「キャンプしたい!」「テントがほしい!」などの発信がありました。

テントがほしい! 安心できる場づくり

- ・子どもの思いをもとに、「三角テント」や「タープ」を新聞紙や布などの様々な素材で作成しました。
- ・常に場を残せるよう、天井に吊るすなど工夫をしたことで、タープ下の空間がキャンプの場となりました。



バーベキューではなにを食べる？みんなでつくるの楽しいね！

子どもたちから出たアイデアを元に保育者や友達と一緒に具材をつくっていきました。子どもたちそれぞれでキャンプやバーベキューの経験は違いましたが、子どもの思いや発信の中にある「共通のイメージ」を保育者が見取り、遊びを支えていきました。

思いの 発信

家庭でキャンプの経験があったことで「キャンプにいったんだ」「おにくやいたよ！」「テントほしい！」という思いを発信していました。

思いの見取り

→子どもたちが家庭でキャンプの経験があったことを知っていた保育者は、子どもたちからどんなことをしたかアイデアを引き出し、やり取りの仲立ちをしていきました。

やって みたい！

キャンプ場ができ、思いが実現したことが嬉しく「火をつけなきゃ！」「網を使って焼くんだよ」「野菜もいるんじゃない？」と安心してアイデアを出す姿が見られるようになりました。

思いの見取り

→子どもたちから出たアイデアや発信を周りの友達に共有していききました。保育者や友達に「いいね！すごいね！」と認められたことで自分の思いを自由に表現し、遊びが展開されていきました。

やり取りの 楽しさ

その後も、安心できる環境のもと、子どもたちは都度アイデアや思いを発信しながらキャンプごっこを楽しむようになりました。また、『一緒に串を焼く』などの遊びの中で、「〇〇ちゃんもやろうよ！」と友達を誘ったり「ここに肉を置くの手伝って！」と友達に声をかけたりと、やり取りの楽しさや友達と思いが通じ合う嬉しさを感じる経験となりました。



子どもの育ち

やってみたい！の実現で 自信と喜び

- ★やってみたいことが実現し、「できた！」「楽しい！」を経験
- ★保育者から認められる嬉しさが自信につながり、次への意欲が広がる



友達との関わり・ やり取りの楽しさ

- ★友達や保育者との関わりの中で、思いを伝え合い、遊びが広がる
- ★「○○ちゃんもやろう！」「これ使ってみよう！」などやり取りが増える



安心できる環境のもとで 遊びが続く

- ★自分たちでつくった場があることで、安心して過ごし、遊びが継続
- ★好きな遊びを自分のペースで楽しめる経験に



特別なアイテムがある喜び

- ★安心できるアイテムがあることがきっかけで「友達と一緒にやってみたい」が芽生える
- ★みんなでできた嬉しさや楽しさが次の遊びへの気持ちへつながら



<考察>

・今回の「キャンプごっこ」の遊びには、子どもたちの中で一人一人が考えているイメージがあり、それぞれに「やってみたい」「こんなことしてみたい」の思いがあった。保育者が子どもたちの 共通イメージや「やってみたい」思いを具現化し、満足するまで一緒に遊びに付き合う援助 があったことで「みんなでできた楽しさ」「また明日もやりたい」という 思いにつながったのではないかな。

・教育時間において「キャンプごっこ」の遊びが充実したことで、朝夕の時間にも「これやってみたい！」「キャンプしようよ」と発信する姿が見られました。一方で長時間保育の中では 今まで通り安心できる玩具で遊ぶ姿や年下の児と好きな遊びを楽しむ姿 がありました。「少人数でゆったりと過ごす時間」の保障も大切 だということに気付きました。



事例検討を通しての 新たな視点と気づき

自分も楽しい！友達にも伝えたい！

家庭でキャンプやバーベキューを経験した子は「こうやってやるんだよ！」と保育者や友達に伝える姿がありました。“自分が経験した楽しかったこと”を友達や保育者とも共有したいという思いが芽生えていました。初めてキャンプごっこをする子はどうやってやるのかな…と様子を見たり、バーベキューならつくれる！と制作活動に自信をもって取り組んだりしていました。

“キャンプごっこ”を通してごっこ遊びの雰囲気を楽しむだけでなく、みんなで同じ活動を行うことが楽しい！という思いが膨らんでいった子どもたちです。

『やってみたい！を叶える時間』と 『自分の好きな遊びができる時間』の どちらも大切！

子どもたちから生まれる「こんなことをやってみたい！」という発信を見逃さないように関わっています。いいね！やってみよう！と保育者も楽しさを共有しながら、『やってみたいを叶える時間』を保証できるようにしていきます。

一方、長時間保育の中で「いまはゆっくりとしたいな」という気持ちの時間もあります。子どもたちがホッと一息つくことができる時間や環境を整えていくことが大切です。『好きな玩具でゆったり遊ぶ』、『集中して遊びこむ』などを自分で選択しながら安心して過ごすことができるよう関わっていきます。

